日豪40～70代ラグビー交流

11チーム300人

豪快プレー、盛んな拍手

40歳以上の中高年でつくるラグビーチームが競い合う「第5回三田ゴールデンカップ」が26日、三田市あかしあ台の平谷グラウンドで開かれた。25日に続き大会2日目で、豪州のチームも参加。40～70歳代の選手らは、楕円（だえん）球を追いかけ、パスやタックルで激しいプレーを繰り広げた。

生涯できるスポーツとしてラグビーの普及を目指し、NPO法人「三田ラグビーフットボールクラブ」（田場繁城理事長）が2004年から毎年開催。メンバーが育てた黒豆を会場で販売し、活動資金に充てていることから黒豆カップとの愛称を付けている。

同クラブが運営する「三田酔惑ラグビークラブ」のほか、京都など5府県と豪州から計11チーム約300人が出場。40歳代が白、50歳代は紺など、年代ごとにパンツで色分けされており、60歳代以上の選手にはタックルが禁止されている。試合は15分制で、2日間で計38試合が行われた。

豪州から参加したチーム名は「トゥースレス・タイガー」（牙のない虎）」。年老いて牙は抜けたが、虎の気概はあるという意味で、選手らは華麗なパスや豪快なタックルを見せ、会場からは盛んな拍手が送られていた。

ピーター・ギブソンさん(43)は「言葉の壁を超え、たくさんの友人ができた」と笑い、田場理事長は「年々交流が広がっており、毎年元気に再会できることを楽しみにしています」と話していた。

気迫あるプレーを見せる参加者（三田市あかしあ台で）